

第12回 テーマ 「一日実習を振り返って」

- ・期 日 平成23年12月9日(金)1、2時限
- ・受講者 学生 15人 (4年次14人、大学院生1人)
- ・学部教員 井門正美教授(教職実践演習実施委員会委員長)
杜 威教授、河又邦彦准教授
- ・担当教員 石橋研一客員教授、神居 隆特任教授、斎藤 孝客員教授

協議「一日実習を振り返って」

事前に提示した「参観や振り返りの視点」に基づいて、グループ別に分かれて一日実習の振り返りに関する協議を行った。

協議後、受講した学生たちから次のような意見等が発表された。

【参観の視点】児童生徒が生き生きと活動していたか。また、それは子どものどんな姿から分かったか

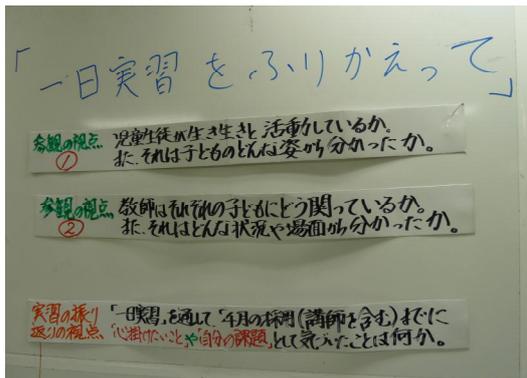
- ・「気づきの瞬間」～「分かったぞ」という子どもの表情や授業の盛り上がり
- ・理科～「どちらが重いか」を議論
- ・国語～一人一人が国語辞典を片手に分からない言葉をこまめに調べていた。
- ・給食～子ども同士で話している表情
(以上、附属小学校)
- ・身近な題材が取り上げられた問題に、興味をもって取り組んでいた。
- ・グループ内で生徒同士の対話が見られる授業であった。
- ・数学～振り返りシートで習ったことを日常に活用しようとする意欲が見られた
- ・美術の表現活動～妥協せずに作品作りに取り組む生徒がいた。
- ・学活の時間～クラス委員が上手にまとめていた。
(以上、附属中学校)
- ・朝の会～一人一人が役割をもって参加していた。
- ・お店屋さんの学習～店員役や客役として友達と関わっていた。
- ・児童同士で楽しくカルタをしていた。
(以上、附属特別支援学校)



【参観の視点】教師がそれぞれの子どものどう関わっているか。また、それはどんな状況や場面から分かったか

- ・子どものつぶやきを逃さずに取り上げ、授業に生かしていた。
- ・授業での子どもの役割の持たせ方
- ・体育の高跳び～子ども一人一人に合わせて跳び方の指導をしていた。
- ・普段の生活からたくさんの言語を引き出そうとしている。
- ・教師は子どもと話すとき、必ずじっと目を見つめていた。
(以上、附属小学校)





- ・子ども中心の授業を進めている。要点を生徒から発表させていた。
 - ・多くの生徒が活躍できるように、一人の生徒の意見を他の生徒に説明させていた。
 - ・板書した生徒と同じ考えの生徒の名前を挙げていた（一人一人の生徒をよく見ている）
 - ・言葉以外で生徒に注意していた。自分で気付いて行動を改めよう意識させるため。
 - ・賑やかな雰囲気を受容している。しかし、注意や指示はしっかり聞かせる。
 - ・子どもを追い詰めない。（クラス内でのトラブルへの対応）（以上、附属中学校）
 - ・授業の流れを始めに示して、子どもに見通しを持たせるようにしていた。
 - ・児童の思いを大切にしかかわり。
 - ・子どもをよく見ていて、いけないことをした場合はしっかりと伝えていた。
- （以上、附属特別支援学校）

【実習の振り返りの視点】一日実習を通して「4月の採用（講師を含む）まで心掛けたいこと」として気付いたこと】

- 以下は、付箋紙に記入して発表した内容
- ・子ども一人一人に向き合うため、人の話をよく聞き、冷静に判断できるように心掛ける。
 - ・自分の行いたい学級づくりや授業を明確にしておく。生徒の目線で考える。
 - ・授業の雰囲気づくりを進めるため、楽しく、真剣にメリハリを付けて。公開授業をたくさん参観する。
 - ・生徒理解に努めるため、生徒一人一人をよく見て、その生徒に合った接し方をする
 - ・トラブルへの対応。子どもと話すことで子ども自身に気付かせる、行動を叱るなど、他の先生を観察して考える。
 - ・子どもを見守る姿勢。すぐに手を貸さずに待つようにする。
 - ・子どもたちに「伝わる話し方」。要点を捉えて、目で見て、聞くことも大切に作る。